

2012年8月期第1四半期業績 及び業績見通し

岡崎 健

株式会社ファーストリテイリング
グループ執行役員 CFO

1

CFOの岡崎です。
私から、2012年8月期第1四半期の業績、及び
通期の業績見通しについてご説明いたします。

I. 第1四半期決算概要	P3	～	P15
II. 2012年8月期業績予想	P16	～	P19
III. ご参考資料	P20	～	P26

【資料文中のグループ事業の表示について】

各グループ事業の構成は、以下のとおりです。

(2012年8月期)

国内ユニクロ事業： 株式会社ユニクロの数値が表示されています。

海外ユニクロ事業： 海外で展開するユニクロ事業が含まれています。

グローバルブランド事業： セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、
ジーユー事業が含まれています。

(2011年8月期)

国内ユニクロ事業： 株式会社ユニクロ(靴事業含む)の数値が表示されています。

海外ユニクロ事業： 海外で展開するユニクロ事業が含まれています。

グローバルブランド事業： セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、ジーユー事業、
キャビン事業が含まれています。

【将来予測に関するご注意】

本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。実際の業績は、経済環境、市場の需要・価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

【連結】2012年8月期 第1四半期実績

売上高: 2,726億円 (前年同期比 + 8.6%)
営業利益: 484億円 (前年同期比 ▲2.8%)
経常利益: 484億円 (前年同期比 + 0.5%)

	2011年8月期	2012年8月期	
	第1四半期実績	第1四半期実績	前年同期比
売上高 (売上比)	2,509 100.0%	2,726 100.0%	+8.6%
売上総利益 (売上比)	1,334 53.2%	1,411 51.8%	+5.8% ▲1.4p
販管費 (売上比)	835 33.3%	927 34.0%	+11.0% +0.7p
営業利益 (売上比)	498 19.9%	484 17.8%	▲2.8% ▲2.1p
経常利益 (売上比)	481 19.2%	484 17.8%	+0.5% ▲1.4p
純利益 (売上比)	227 9.0%	311 11.4%	+37.2% +2.4p

単位: 億円

3

2012年8月期 第1四半期の連結業績ですが、
 売上高は2,726億円、前年同期比8.6%増、
 営業利益は484億円、同2.8%減、
 経常利益は484億円、同0.5%増、
 純利益は311億円、同37.2%増となりました。

次のスライドで要因をご説明いたします。

【連結】第1四半期 増収減益の要因

売上高 2,726億円 (前年同期比 +8.6%)

- ・ 海外ユニクロ事業 +158億円
- ・ グローバルブランド事業 +54億円
- ・ 国内ユニクロ事業 +3億円

売上高総利益率 51.8% (前年同期比 ▲1.4p)

- ・ 国内ユニクロでの低下 ▲2.4p

売上高販管費比率 34.0% (前年同期比 +0.7p)

- ・ 販管費比率の高い海外ユニクロ事業の構成比が高まったため

営業利益 484億円、営業利益率17.8% (前年同期比 ▲2.1p)

経常利益 484億円、経常利益率17.8% (前年同期比 ▲1.4p)

- ・ 円高の一服により為替差損が大幅に減少

純利益 311億円、前年同期比37.2%増

- ・ 前年同期に会計処理変更などにより特別損失96億円を計上

4

まず売上高ですが、2,726億円と前年同期比217億円の増収となりました。その内訳ですが、海外ユニクロ事業が158億円の増収、グローバルブランド事業が54億円の増収、国内ユニクロ事業が3億円の増収となっております。

売上高総利益率は51.8%と、前年同期比1.4ポイント低下いたしました。粗利益率低下の要因としては、国内ユニクロ事業の粗利益率が同2.4ポイント低下したことがあげられます。

販管費は前年同期比で91億円増え、売上高販管費比率は34.0%と、前年同期比0.7ポイント上昇いたしました。これは、比較的販管費比率が高い海外ユニクロ事業の構成比が高まったことが要因です。

これらの結果、営業利益は484億円、営業利益率は17.8%と、同2.1ポイント低下いたしました。

経常利益につきましては484億円、経常利益率は17.8%と、同1.4ポイント低下しております。

なお、営業外損益ですが、前年同期では円高の進行により、為替差損16億円を計上しておりましたが、この第1四半期では円高が一服したことから為替差損が大幅に減り、営業外損益はネットでほぼゼロとなっております。

純利益は311億円、前年同期比37.2%増となりました。これは前年同期に会計処理の変更などにより特別損失96億円を計上していたことによるものです。

第1四半期 グループ事業別実績

単位：億円

		2011年8月期	2012年8月期	
		第1四半期実績	第1四半期実績	前年同期比
国内ユニクロ事業	売上高	1,897	1,900	+0.2%
	営業利益	420	376	▲10.3%
	(売上比)	22.1%	19.8%	▲2.3p
海外ユニクロ事業	売上高	268	426	+59.1%
	営業利益	48	54	+13.3%
	(売上比)	18.0%	12.8%	▲5.2p
グローバルブランド事業	売上高	337	392	+16.3%
	営業利益	39	53	+35.2%
	(売上比)	11.8%	13.7%	+1.9p

※1 国内ユニクロ事業：2011年8月期の第1四半期には靴専門店事業の売上高17億円、営業損失▲3億円が含まれております。なお、靴専門店事業は2011年8月末までに全店舗を閉店しております。

※2 連結売上高には上記のほか、ファーストリテイリングの売上高が含まれております。
また、連結営業利益には、上記のほかファーストリテイリングの営業損益、のれん償却費が含まれております。

グループ事業別の業績は、こちらのスライドの通りです。

国内ユニクロ事業の売上高は1,900億円、営業利益は376億円、
海外ユニクロ事業の売上高は426億円、営業利益は54億円、
グローバルブランド事業の売上高は392億円、営業利益は53億円
となっており、海外ユニクロ事業の連結業績への貢献度が
高まっております。

1Q 増収減益

期初予想比：売上高▲179億円、営業利益▲53億円下ぶれ

単位：億円

	2011年8月期	2012年8月期	
	第1四半期実績	第1四半期実績	前年同期比
売上高 (売上比)	1,897 100.0%	1,900 100.0%	+0.2%
売上総利益 (売上比)	964 50.8%	920 48.4%	▲4.5% ▲2.4p
販管費 (売上比)	544 28.7%	544 28.6%	▲0.0% ▲0.1p
営業利益 (売上比)	420 22.1%	376 19.8%	▲10.3% ▲2.3p

6

まず国内ユニクロ事業ですが、第1四半期の売上高は1,900億円、前年同期比0.2%増、営業利益は376億円、同10.3%減と、増収減益の結果となりました。

10月時点の期初予想に比べて、売上高は179億円、営業利益は53億円下ぶれる結果となっております。
ただし値引きコントロールを強化した結果、売上高総利益率は予想に対して0.3ポイント上まわることができ、販管費は計画に対して27億円削減することができました。

項目ごとにつきましては、次のスライドでご説明させていただきます。

1Q 売上高 1,900億円 (前年同期比 +0.2%)

ユニクロ直営店 2011年11月末 831店舗(FC店22店舗を除く)
前年同期末比 +28店舗

既存店売上高 前年比 ▲4.0% (客数 ▲9.6%、客単価 +6.2%)

- ・気温が高かったことによる冬物実需商品の出遅れ
- ・客単価プラスの要因:ウルトラライトダウンの販売好調による一品単価上昇

直営既存店 前年比	2012年8月期				
	9月	10月	11月	1Q累計	12月
売上高	▲10.7%	▲4.0%	▲1.0%	▲4.0%	+14.2%
客数	▲12.7%	▲8.4%	▲9.0%	▲9.6%	+2.4%
客単価	+2.3%	+4.7%	+8.8%	+6.2%	+11.6%

7

まず売上高の状況についてご説明いたします。

既存店売上高は4.0%減収でしたが、直営店舗数が前年同期末比で28店舗増加したことから、売上高は0.2%の増収となりました。なお、前年の第1四半期には靴の専門店の売上高が17億円含まれていたことから、実質ベースでは約20億円の増収となっております。

既存店売上高4.0%減収の内訳は、客数で9.6%のマイナス、客単価で6.2%のプラスとなっております。

9月は残暑が厳しく大幅な減収となり、10月は下旬に気温が高く推移したことで、ヒートテックをはじめとした冬物の実需商品の動きが鈍く、11月も気温が高く推移したことから計画を下ぶれる結果となりました。

客単価がプラスとなったのは、ウルトラライトダウンが好調だったことで、一品単価が上昇したためです。なお、ウルトラライトダウンは、生産数量を前年の秋冬シーズンに比べて今年は2.5倍に増やしております。

既にお知らせしている通り、12月の既存店売上高は14.2%増と大幅な増収になりました。増収の要因としては、気温の低下に伴い、冬物の実需商品が好調に販売できたこと、暖パン、マイクロフリースルームセット、ウルトラライトダウンといった比較的単価の高い商品の販売が好調だったことが客単価上昇に寄与したためです。

1Q 売上高総利益率 48.4% (前年同期比 ▲2.4p)

期初予想比: 0.3ポイント上ぶれ

売上高総利益率が期初予想比で上ぶれた要因

- ・コア商品中心の商売により値引率をコントロール
- ・好調なウルトラライトダウンの値引率が計画比で縮小

売上高総利益率が前年同期比で低下した要因

- ・綿花を中心とした素材価格、工場加工賃の上昇
- ・集客を目的としたヒートテック限定販売の強化

次に売上高総利益率ですが、48.4%と前年同期比2.4ポイント低下いたしました。しかしこれは、期初予想に対して0.3ポイント上ぶれております。

第1四半期の売上高は期初予想に対して179億円下ぶれてしておりますが、コア商品を中心とした商売を行った結果、効率的に値引率をコントロールすることができました。特に、好調なウルトラライトダウンの値引率が低かったことで、粗利益率は計画を上ぶれすることができました。

粗利益率は前年同期比では2.4ポイント低下しておりますが、これは期初から、綿花をはじめとする素材価格の上昇や、工場加工賃の上昇といった原価率の上昇を見込んでいたからです。またヒートテックの限定販売を強化することで集客を図る計画でいたことも、粗利益率が前年同期比で低下した要因となっております。

【国内ユニクロ事業】販管費

1Q 売上高販管費比率 28.6% (前年同期比 ▲0.1p)

期初予想比：販管費 ▲27億円削減

対売上高比率は0.1ポイント改善

- | | | |
|-----------|-------|-----------|
| ・ 人件費比率 | 前年同期比 | ▲0.5 ポイント |
| ・ 広告宣伝費比率 | 同 | ▲0.1 ポイント |
| ・ 賃借料率 | 同 | 0.0 ポイント |
| ・ その他経費比率 | 同 | +0.5 ポイント |

期初計画比 ▲27億円

- ・ 店舗人件費、賃借料などの売上連動経費が減少

売上高販管費比率は28.6%と、前年同期比0.1ポイント改善いたしました。なお、販管費は期初予想に比べて27億円削減できております。

販管費比率の内訳としては、人件費比率が前年同期比0.5ポイント改善、広告宣伝費比率は0.1ポイントの改善、賃借料率は横ばいとなっております。

一方で、その他の経費比率が0.5ポイント上昇しております。今期から生産部の人員を中国子会社に出向させたことで、人件費は低下いたしましたが、ほぼ同額が委託費としてその他費用に含まれているためです。

なお、第1四半期の販管費が期初予想に比べて減少したのは、売上高が計画を下ぶれたことにより、店舗人件費、賃借料などの、売上連動経費が減少したためです。

出店ペース拡大、売上高は6割アップ

アジア地区：37店舗の出店、大幅な増収増益を達成

中国・香港：25店舗を出店、既存店売上高の二桁増収続き、

業績は計画を上回り、大幅な増収増益

台湾：6店舗出店、グローバル旗艦店(明曜百貨店)は好調

韓国：既存店売上高の二桁増収続き、計画を上回り大幅な増収増益

グローバル旗艦店(明洞中央店)は好調

シンガポール・マレーシア：計画通りの順調な業績

タイ：9月にタイ1号店を出店、好調な売上

		2011年8月期		2012年8月期	
		第1四半期実績	第1四半期実績	前年同期比	
海外ユニクロ事業	売上高	268	426	+59.1%	
	営業利益	48	54	+13.3%	
	(売上比)	18.0%	12.8%	▲5.2p	

単位：
億円

10

次に海外ユニクロ事業ですが、売上高は426億円、前年同期比59.1%増、営業利益は54億円、同13.3%増の大幅な増収増益を達成いたしました。なお、売上高、営業利益ともにほぼ計画通りの水準となりました。

第1四半期3ヶ月間のアジア地区での出店数は37店舗と計画通りとなり、大幅な増収増益を達成いたしました。

まず中国・香港ですが、第1四半期での出店数は25店舗と店舗網を拡大し、既存店売上高の二桁増収も続いていることから、業績は計画を上回る大幅な増収増益となりました。

台湾では、この第1四半期で6店舗出店いたしました。9月に台北にオープンしたグローバル旗艦店 明曜(めいよう)百貨店の売上は好調に推移しております。

韓国では、既存店売上高の二桁増収が続いており、業績は計画を上回り、大幅な増収増益となりました。11月にオープンしたグローバル旗艦店 明洞中央店の売上は好調に推移しております。

シンガポール・マレーシアについては計画通り順調な業績となっております。

9月に進出したタイ1号店は、オープン前に多くのお客様が並ぶなど大きな反響を持って受け入れられ、好調な売上を達成しております。

欧米：グローバル旗艦店のオープンで ユニクロブランドの知名度が大幅に向上

米国：グローバル旗艦店 NY 5番街店、NY 34丁目店は大きな話題に
米国におけるユニクロの知名度が大幅に向上

34丁目店の売上は計画下ぶれ、通期業績は若干の赤字見込み

フランス：計画通りの業績

10月にラ・デファンス店を増床オープン

英国：売上、利益ともに計画未達

ロシア：計画を若干上回り、収益が改善

米国では、10月14日にグローバル旗艦店 ニューヨーク5番街店、翌週には
ニューヨーク34丁目店と続けて店舗を出店し、ユニクロブランドの知名度が
飛躍的に向上いたしました。

5番街店のオープン時には長蛇の列が出来るなど大きな話題を集め、
売上は順調に推移しております。

34丁目店については、若干計画を下回る売上トレンドとなっております。

米国ユニクロの通期は当初黒字を目指しておりましたが、若干の赤字となる見込み
です。

フランスではラ・デファンス店を10月に増床オープンし、ほぼ計画通りの
業績となっております。

英国では、売上高、利益ともに計画未達で減益となっております。

ロシアでは、売上高、利益ともに計画を若干上ぶれており、
収益性は改善しております。



【グローバル旗艦店】 ニューヨーク5番街店

店舗名 : ユニクロ ニューヨーク5番街店
売場面積: 約1,400坪<ユニクロ史上世界最大>
オープン : 2011年10月14日(金)



オープンテープカットの様子
(左:5番街店 日下店長
中央:ブルームバーグNY市長
右:柳井会長兼社長)

次に、この第1四半期3ヶ月間でオープンしたグローバル旗艦店をご紹介します。別添のカラー資料をご覧ください。

まずは10月14日にオープンした、グローバル旗艦店 ニューヨーク5番街店です。売場面積1,400坪と、ユニクロ史上最大の売場面積で出店いたしました。

ユニクロにとって、ニューヨーク5番街という立地は、全米、ひいては全世界に開かれたショールームとして大きな価値があります。



入口中央の3階まで突き抜けるエスカレーター



5番街という立地にあわせ、カスタマーカウンターを設置



3階にはヒートテックトンネルと呼ばれる売り場を展開

次の写真は、オープン直後の店舗の様子です。

オープン当日から多くのお客様に並んでいただき、大盛況のなか幕を開けることができました。

【グローバル旗艦店】台湾 明曜百貨店

店舗名 : ユニクロ 明曜(めいよう)百貨店
売場面積: 約1,100坪 (明曜百貨1階~3階)
オープン : 2011年9月23日(金)



次は2011年9月23日にオープンいたしました、台湾のグローバル旗艦店、ユニクロ 明曜(めいよう)百貨店です。台北の目抜き通りに面した老舗の百貨店の1階から3階までに出店いたしました。



【グローバル旗艦店】韓国 明洞中央店

店舗名 : ユニクロ 明洞中央店
売場面積: 約1,200坪 (1~4階)
オープン : 2011年11月11日(金)



最後に、2011年11月11日にオープンいたしました、韓国のグローバル旗艦店、ユニクロ 明洞中央店です。

韓国衣料品業界で史上最高額の単日売上高を記録することができました。

セオリー事業、ジーユー事業は大幅増益

セオリー事業：日米ともに既存店売上高の増収続き、
計画を上回る大幅な増益

ジーユー事業：既存店20%強の増収、利益率が改善し、
大幅な増収増益を達成

コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業：
計画通り、前年並みの業績

単位：億円

		2011年8月期	2012年8月期	
		第1四半期実績	第1四半期実績	前年同期比
グローバルブランド事業	売上高	337	392	+16.3%
	営業利益	39	53	+35.2%
	(売上比)	11.8%	13.7%	+1.9p

12

スライド12ページにお戻りください。

グローバルブランド事業の第1四半期の売上高は392億円、前年同期比16.3%増、営業利益は53億円、同35.2%増と、二桁の増収増益を達成いたしました。これは売上高、利益ともに計画通りの水準となっております。

セオリー事業は、日米ともに既存店売上高の増収が続いており、計画を上回る大幅な増益となりました。

ジーユー事業は、この第1四半期では既存店売上高が20%強の増収となり、営業利益率も改善し、大幅な増益を達成いたしました。

コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業は、ともに第1四半期の売上高、利益は計画通り、ほぼ前年並となっております。

単位：億円

	2010年11月末	2011年8月末	2011年11月末	前年同期比
総資産	5,586	5,337	6,168	+581
流動資産	3,945	3,699	4,463	+518
固定資産	1,641	1,638	1,705	+63
負債	2,532	2,138	2,630	+97
純資産	3,054	3,199	3,537	+483

13

次に2011年11月末のバランスシートの説明をさせていただきます。

前年同期末との比較では、
 流動資産が518億円増加し、固定資産が63億円増加した結果、
 全体の総資産は581億円増加して、6,168億円となりました。

詳細については、次のスライドでご説明いたします。

流動資産の増加

現金・預金及び有価証券の増加 +205億円(2,143億円 ⇒ 2,348億円)

営業キャッシュ・フローの増加

たな卸資産の増加 +212億円(803億円 ⇒ 1,016億円)

【国内ユニクロ事業】 +67億円増

新店28店舗増による在庫増 +30億円

冬物在庫の積み増し +37億円

【海外ユニクロ事業】 +134億円増

出店増と一店舗あたり売上拡大、グローバル旗艦店・大型店の出店

【グローバルブランド事業】 +8億円増

ジューシー事業、セオリー事業の事業拡大による在庫の増加

まず、流動資産が増加した要因をご説明します。

現金・預金及び有価証券の合計額は2,348億円と、前年同期末比で205億円増加いたしました。これは、国内ユニクロ事業をはじめとする各事業の営業キャッシュ・フローが増加したことによるものです。

期末のたな卸資産は1,016億円と、前年同期末比212億円増加しております。

国内ユニクロ事業の11月末の在庫は、534億円と前年同期末比67億円増加しております。新店28店舗増による在庫増が30億円、冬物在庫を積みました影響が37億円となっています。

また、海外ユニクロ事業における在庫は、前年同期末比で134億円増加しております。

これは、出店の増加と、一店舗あたりの売上高拡大によるものです。特にこの第1四半期では、ニューヨーク、台北、ソウルとグローバル旗艦店や大型店を次々とオープンしたことによる影響で在庫が増えております。

グローバルブランド事業における在庫は、前年同期末比で8億円増加しております。

これはジューシー事業、セオリー事業では事業拡大により在庫が増加がしたことが要因です。

	2011年8月期 第1四半期	2012年8月期 第1四半期	コメント
営業活動によるキャッシュ・フロー	+353	+504	
税金等調整前当期純利益	+374	+479	国内ユニクロ事業の利益貢献
減価償却費、のれんの償却額	+91	+57	
運転資金の増減額	+132	+92	売上債権、たな卸資産、仕入債務の増減の合計額
法人税等の支払い・還付	▲305	▲123	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲91	▲112	
有形固定資産の取得による支出	▲55	▲89	出店拡大に伴う投資
無形固定資産の取得による支出	▲41	▲10	
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲131	▲71	
配当金の支払額	▲114	▲85	期末配当金1株あたり85円の支払
現金及び現金同等物の増加額	134	321	
現金及び現金同等物の期首残高	2,004	2,021	
現金及び現金同等物の期末残高	2,143	2,348	

第1四半期のキャッシュ・フローについてご説明いたします。

営業活動によるキャッシュ・フローは、国内ユニクロ事業の利益貢献などにより504億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、112億円の支出となっております。支出の主な内訳としては有形固定資産の取得で89億円、システム投資などによる無形固定資産の取得で10億円となっております。

なお連結ベースの設備投資額は125億円、内訳は、国内ユニクロ事業で44億円、海外ユニクロ事業で60億円、グローバルブランド事業で9億円、ファーストリテイリングで12億円となっております。

財務活動によるキャッシュ・フローは、71億円の支出となっております。支出の主な内訳としては、配当金の支払額85億円となっております。

以上の結果、2011年11月末における現金及び現金同等物の期末残高は2,348億円となりました。

期初予想比:売上高▲280億円、営業利益▲50億円
 経常利益▲20億円、当期純利益▲10億円

	2011年8月期 通期実績	2012年8月期 期初予想		2012年8月期 修正予想	
		(10/12時点)	前期比	(1/12時点)	前期比
売上高 (売上比)	8,203 100.0%	9,650 100.0%	+17.6%	9,370 100.0%	+14.2%
売上総利益 (売上比)	4,257 51.9%	4,920 51.0%	+15.6% ▲0.9p	4,785 51.1%	+12.4% ▲0.8p
販管費 (売上比)	3,094 37.7%	3,565 36.9%	+15.2% ▲0.8p	3,480 37.1%	+12.5% ▲0.6p
営業利益 (売上比)	1,163 14.2%	1,355 14.0%	+16.4% ▲0.2p	1,305 13.9%	+12.1% ▲0.3p
経常利益 (売上比)	1,070 13.1%	1,275 13.2%	+19.1% +0.1p	1,255 13.4%	+17.2% +0.3p
特別損益	▲132	▲40	-	▲40	-
当期純利益 (売上比)	543 6.6%	710 7.4%	+30.6% +0.8p	700 7.5%	+28.8% +0.9p

単位: 億円

16

ここからは、2012年8月期の通期業績予想についてご説明いたします。

売上高は、期初予想の9,650億円から9,370億円へ、280億円減額修正いたします。

営業利益は、期初予想の1,355億円から1,305億円へ、50億円減額修正いたします。

為替差損の予想については、円高基調が一服していることから、期初予想から30億円修正いたしました。

この結果、経常利益は期初予想の1,275億円から1,255億円と、20億円減額修正いたします。

当期純利益については、期初予想の710億円から700億円へ、10億円減額修正いたします。

上期の営業利益は期初予想比 ▲35億円の減額修正

- ・ 売上高 期初予想比 ▲170億円減額
既存店売上高 期初予想 +5.0% ⇒ +0.2%へ修正
- ・ 2Q売上高総利益率 期初予想比 ▲0.3p
- ・ 販管費 期初予想比 ▲45億円削減

下期の営業利益は期初予想比 ▲15億円の減額修正

- ・ 売上高 期初予想比 ▲110億円減額
既存店売上高 期初予想 +5.0% ⇒ +1.3%へ修正
- ・ 販管費 期初予想比 ▲40億円削減

期初予想対修正額一覧	2012年8月期				
	第1四半期	第2四半期	上期	下期	通期
売上高	▲179億円	+9億円	▲170億円	▲110億円	▲280億円
売上高総利益率	+0.3p	▲0.3p	±0.0p	±0.0p	±0.0p
販管費	▲27億円	▲18億円	▲45億円	▲40億円	▲85億円
営業利益	▲53億円	+18億円	▲35億円	▲15億円	▲50億円

17

国内ユニクロ事業の業績予想の修正について詳細をご説明いたします。

まず、上期の売上高ですが、第1四半期の下ぶれ分179億円と、好調な12月の売上トレンドを加味し、3,600億円と期初予想に比べ、170億円減額修正いたします。上期の既存店増収率は0.2%増の見込です。

売上高総利益率は、第2四半期に冬物商品の構成が増えることを見込んでいることから、期初予想よりも0.3ポイント修正いたします。しかし第1四半期で粗利率は0.3ポイント上ぶれたていることから、上期の粗利益率は47.9%と当初予想のままいたします。

販管費は、第2四半期の経費削減効果による18億円と、第1四半期の下ぶれ27億円を合わせて、上期全体では期初予想比45億円の削減を見込んでおります。

この結果、上期の営業利益は680億円と、期初予想に比べて35億円の減額修正いたします。

下期の既存店売上高の予想は、上期の販売動向を考慮し1.3%増に修正いたしました。また、下期の出退店は出店12店舗、閉店は11店舗と純増数は1店舗を予想しており、その影響も加味し、下期の売上高は期初予想から110億円減額修正いたしました。

下期の販管費については、経費削減を進めることで期初予想に比べて40億円削減できる見込みです。よって、下期の営業利益は385億円、期初予想に比べて15億円の減額修正の見込みです。

売上高：6,290億円（前期比+4.8%）

営業利益：1,065億円（前期比+0.3%）

単位：億円

	2011年8月期	2012年8月期		2012年8月期	
	通期実績	期初予想 (10/12時点)	前期比	修正予想 (1/12時点)	前期比
売上高 (売上比)	6,001 100.0%	6,570 100.0%	+9.5%	6,290 100.0%	+4.8%
売上総利益 (売上比)	2,949 49.1%	3,185 48.5%	+8.0% ▲0.6p	3,050 48.5%	+3.4% ▲0.6p
販管費 (売上比)	1,886 31.4%	2,070 31.5%	+9.7% +0.1p	1,985 31.6%	+5.2% +0.2p
営業利益 (売上比)	1,062 17.7%	1,115 17.0%	+5.0% ▲0.7p	1,065 16.9%	+0.3% ▲0.8p

18

以上の結果、2012年8月期通期の売上高は期初予想から280億円減額修正して6,290億円、前期比4.8%増、営業利益は50億円減額修正して、1,065億円、前期比0.3%増を見込んでおります。

国内ユニクロ事業 : 業績を減額修正
 海外ユニクロ事業 : 変更なし
 グローバルブランド事業 : 変更なし

単位: 億円

		2011年8月期	2012年8月期		2012年8月期	
		通期実績	期初予想 (10/12時点)	前期比	修正予想 (1/12時点)	前期比
国内ユニクロ事業	売上高	6,001	6,570	+9.5%	6,290	+4.8%
	営業利益	1,062	1,115	+5.0%	1,065	+0.3%
	(売上比)	17.7%	17.0%	▲0.7p	16.9%	▲0.8p
海外ユニクロ事業	売上高	937	1,600	+70.7%	1,600	+70.7%
	営業利益	89	170	+89.9%	170	+89.9%
	(売上比)	9.6%	10.6%	+1.0p	10.6%	+1.0p
グローバルブランド事業	売上高	1,240	1,450	+16.9%	1,450	+16.9%
	営業利益	87	135	+53.6%	135	+53.6%
	(売上比)	7.1%	9.3%	+2.2p	6.8%	+2.2p

※1 国内ユニクロ事業:2011年8月期には靴専門店事業の売上高42億円、営業損失▲14億円が含まれております。なお、靴専門店事業は2011年8月末までに全店舗を閉店しております。

※2 連結売上高には上記のほか、ファーストリテイリングの売上高が含まれております。
 また、連結営業利益には、上記のほかファーストリテイリングの営業損益、のれん償却費が含まれております。19

グループ事業別の売上高、営業利益はこちらのスライドの通りです。

国内ユニクロ事業については売上高、営業利益ともに減額修正しておりますが、海外ユニクロ事業、グローバルブランド事業については、期初予想から変更はございません。

最後に、2012年8月期の一株当たり配当金ですが、
 中間配当金115円、期末配当金115円、あわせて年間配当金は230円と
 期初予想から変更はございません。

以上で私からの説明を終わります。

ありがとうございました。

	2011年8月期	2012年8月期		
	実績	期初予想 (10/12時点)	修正予想 (1/12発表)	前期比
売上高	6,001 億円	6,570 億円	6,290 億円	+4.8%
既存店伸び率(通期)	▲6.0%	+5.0%	+0.7%	-
上期	▲9.9%	+5.0%	+0.2%	-
下期	+0.4%	+5.0%	+1.3%	-
店舗数純増(通期)	34店舗	24店舗	8店舗	▲26店舗
上期	16店舗	9店舗	7店舗	▲9店舗
下期	18店舗	15店舗	1店舗	▲17店舗
売上高総利益率(通期)	49.1%	48.5%	48.5%	▲0.6p
上期	49.5%	47.9%	47.9%	▲1.6p
下期	48.6%	49.3%	49.3%	+0.7p
売上高販管費率(通期)	31.4%	31.5%	31.6%	+0.2p
上期	29.0%	28.9%	29.0%	±0.0p
下期	34.7%	35.0%	34.9%	+0.2p

連結対象会社別出退店 実績・予想

【単位:店舗】	2011年 8月期 期末	2012年8月期								
		1Q実績(2011/11末)				通期 予想(2012/8末)				
		出店	退店	純増減	期末	出店	退店	純増減	期末	
ユニクロ事業合計	1024	59	7	+52	1,076	138	23	+115	1,139	
国内ユニクロ事業:	843	17	7	+10	853	30	22	+8	851	
直営店	822	16	7	+9	831	29	21	+8	830	
大型店	129	14	0	+14	143	20	1	+19	148	
標準店等	693	2	7	▲5	688	9	20	▲11	682	
FC	21	1	0	+1	22	1	1	0	21	
海外ユニクロ事業:	181	42	0	+42	223	108	1	+107	288	
中国(除く香港)	80	25	0	+25	105	60	1	+59	139	
香港	15	0	0	0	15	1	0	+1	16	
台湾	1	6	0	+6	7	16	0	+16	17	
韓国	62	3	0	+3	65	20	0	+20	82	
シンガポール	5	0	0	0	5	0	0	0	5	
マレーシア	2	1	0	+1	3	1	0	+1	3	
タイ	0	2	0	+2	2	4	0	+4	4	
フィリピン	0	0	0	0	0	1	0	+1	1	
英国	11	2	0	+2	13	2	0	+2	13	
米国	1	2	0	+2	3	2	0	+2	3	
フランス	1	1	0	+1	2	1	0	+1	2	
ロシア	3	0	0	0	3	0	0	0	3	
ジーユー事業	148	18	0	+18	166	34	8	+26	174	
セオリー事業※	371	13	7	+6	377	18	19	▲1	370	
コントワー・デ・コトニエ事業※	386	4	1	+3	389	15	10	+5	391	
プリンセス タム・タム事業※	159	0	0	0	159	0	0	0	159	
総 合 計	2,088	94	15	+79	2,167	205	60	+145	2,233	

※ FC店含む

【連結】2012年8月期 中間業績予想

単位：億円

	2011年8月期 中間実績	2012年8月期 中間		2012年8月期 中間	
		期初予想 (10/12時点)	前年同期比	修正予想 (1/12時点)	前年同期比
売上高 (売上比)	4,573 100.0%	5,380 100.0%	+17.6%	5,210 100.0%	+13.9%
売上総利益 (売上比)	2,384 52.1%	2,700 50.2%	+13.2% ▲1.9p	2,620 50.3%	+9.9% ▲1.8p
販管費 (売上比)	1,563 34.2%	1,840 34.2%	+17.7% +0.0p	1,795 34.5%	+14.8% +0.3p
営業利益 (売上比)	820 17.9%	860 16.0%	+4.8% ▲1.9p	825 15.8%	+0.5% ▲2.1p
経常利益 (売上比)	776 17.0%	820 15.2%	+5.6% ▲1.8p	800 15.4%	+3.0% ▲1.6p
当期利益 (売上比)	416 9.1%	465 8.6%	+11.6% ▲0.5p	455 8.7%	+9.2% ▲0.4p

単位：億円

	2011年8月期 中間実績	2012年8月期中間		2012年8月期中間	
		期初予想 (10/12時点)	前年同期比	修正予想 (1/12時点)	前年同期比
売上高 (売上比)	3,421 100.0%	3,770 100.0%	+10.2%	3,600 100.0%	+5.2%
売上総利益 (売上比)	1,695 49.5%	1,805 47.9%	+6.5% ▲1.6p	1,725 47.9%	+1.8% ▲1.6p
販管費 (売上比)	991 29.0%	1,090 28.9%	+10.0% ▲0.1p	1,045 29.0%	+5.4% +0.0p
営業利益 (売上比)	703 20.6%	715 19.0%	+1.6% ▲1.6p	680 18.9%	▲3.4% ▲1.7p

※ 国内ユニクロ事業：2011年8月期中間には靴専門店事業の売上高27億円、営業損失▲8億円が含まれております。なお、靴専門店事業は2011年8月末までに全店舗を閉店しております

適用為替レート

単位: 円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2012年8月期 第1四半期(3ヶ月平均)	77.0	108.1	123.4	12.1	6.9
2011年8月期 第1四半期(3ヶ月平均)	83.1	111.2	130.8	12.3	7.2
2012年8月期 通期予想レート(10/12時点)	80.0	105.0	120.0	12.0	7.0
2011年8月期 通期実績(12ヶ月平均)	82.0	113.2	131.1	12.4	7.0

設備投資 減価償却費 のれん償却額

単位: 億円

	設備投資	減価償却費	のれん償却額
2012年8月期 第1四半期実績(3ヶ月累計)	125	42	15
2011年8月期 第1四半期実績(3ヶ月累計)	119	75	16
2012年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	360	160	56
2011年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	339	187	65

※ 2011年8月期通期及び1Qの減価償却費実績には、固定資産減価償却の一括償却分40億円を含む

会計処理の変更に伴う特別損失 合計 96億円

物流費一括償却 ▲26億円

物流費・商品倉庫料の計上基準を統一したことに伴い、2010年8月末時点の在庫に含まれる物流費・商品倉庫料の相当額を一括償却

固定資産の減価償却費一括償却 ▲40億円

固定資産の減価償却費計上基準を統一したことに伴う、過去分一括償却

資産除去債務過去分一括償却 ▲29億円

資産除却債務会計基準の適用に伴い、過去分を一括償却

その他の特別損失 合計 38億円

災害による損失 ▲10億円

東日本大震災に伴うもの

減損損失 ▲ 8億円

プリンセス タム・タム事業にかかるのれんの減損 5億円含む

事業整理損失引当金繰入額 ▲ 8億円

靴販売専門店の閉店に伴うもの

グループ事業：各カテゴリーに含まれる事業

2010年8月期まで

2011年8月期以降

2010年8月期まで		2011年8月期以降	
	含まれる事業		含まれる事業
国内ユニクロ事業	日本で展開するユニクロ事業	国内ユニクロ事業	日本で展開するユニクロ事業 靴事業★
海外ユニクロ事業	海外で展開するユニクロ事業	海外ユニクロ事業	海外で展開するユニクロ事業
国内関連事業	ジーユー事業	グローバルブランド事業	セオリー事業
	靴事業		コントワー・デ・コトニエ事業
	キャビン事業		プリンセス タム・タム事業
セオリー事業	ジーユー事業★		
グローバルブランド事業	コントワー・デ・コトニエ事業		
	プリンセス タム・タム事業		

※ ㈱キャビンは2010年9月1日よりリンク・セオリー・ジャパンに合併。2011年2月末までにキャビン事業が展開するすべてのブランドを休止。一部店舗については、PLST(プラステ)に転換。

※ 靴事業は2010年4月1日より㈱ユニクロに合併。2011年8月末までに靴事業の専門店を全て閉店。

★ カテゴリーを変更した事業